

7月24日(月)

心の窓

聖書朗読 マルコ 7：14～23

しかし、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、万一にもあなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあってはと、私は心配しています。
Ⅱコリント 11：3

神様の造りたもう創造物は完全であり、なかでも、男と女は神ご自身のかたちとして創造された最上のものなのです。しかし、人は罪がうちに入ることを選びました。外側からは、心の変化はわかりません。あなたや私、そして大多数の人々は、心のうちにある罪を明らかにせず、それを心のうちに秘めます。イエス様が教えられた通り、罪は常に心のうちから出て来るのです。『これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。』(マルコ7：23)。心とは、考え、意志、思いの肥沃な土壌であり、罪は、心のうちにある悪い考えから出て来るのです。そして、私たちの行いは、心の窓を通して実現するのです。

しかし、希望はあります。イエス様は、私たちに新たな心を与えてくださいました。それは、善良、親切、そして私たちの心のうちにある聖霊がもたらす豊かな実りなのです。神様の子どもとして、私たちにはこのように告げられています。『新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せてますます新しくされ、真の知識に至るのです。』(コロサイ3：10)

神様を心のうちに抱いていれば、罪は生きながらえることはできません。神様の教えが芽吹くのです。あなたのうちにある神様の存在を覚えることが、心のうちの芽生えに繋がるのです。

讃美歌 514

祈り 万物の創造主たる、全ての善き心を与えたもう聖なる神様。私のうちにある、そして私を通してあなたの御光が豊かに照らされますように、私の言葉と行いを通して、人々があなた様のご栄光を覚えることができますようにお導きください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

キャロル・ロッジ
コロラド州 プエブロ

今日の力

2017年7月24日～7月30日

翻訳 小出友紀

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月25日（火）

主 に あ っ て 何 を 恐 れ よ う

聖書朗読 マルコ 7：14～23

主は、私の光、私たちの救い。だれを私は恐れよう。主は、私のいのちのとりで。
だれを私はこわがろう。 詩篇 27：1

子どもたちは、一般的に、親を完全に信頼しています。どんなに高いところからでも信頼する親が広げた両腕めがけて飛び込んでいきます。ダビデは、全き信頼を主においていました。彼は、敵の中にあっても神が救い出してくださることを確信していました。このような素晴らしい信仰が私にもあれば願います。私たちは、生ける真の神様の存在を確信し、讃美します。神様は私たちの思いをはるかに超えて、素晴らしい贈り物を私たちにくださいます。しかし、それでも私たちは、主に全き信頼を置くことが難しいのです。

本日の聖書の箇所では、イエス様の前に父親が息子を連れてきます。この息子には生まれた時から痙攣の症状がありました。父親はイエス様に、「もし、おできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください」とお願いしました。それに対してイエス様は、「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです」とお答えになりました。すると、父親は叫んで、「信じます。不信仰な私をお助けください」と言いました（マルコ9：21～24）。私たちの大半は、不信仰ゆえの困難を抱えています。しかし、イエス様は、『わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』と約束してくださいました（マタイ28：20）。ヘブル10：23にはこのようにあります。『約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。』神様は私たちを落胆させません。私たちは人間や財産に失望させられます。しかし、神様はそうではないのです。信仰をもって、心を高く上げて神様を仰ぎ見ましょう。

讃美歌 268

祈 り 父なる神様。あなた様の誠実、御力、英知、そして愛を覚え感謝申し上げます。欠けたる信仰しかない私たちですが、どうか導いてください。あなた様に更なる信頼を置くことができますように力をお与えください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

グレン・ボイド

アーカンソー州 サーシー

7月26日（水）

イエス様へと至る道への妨げ

聖書朗読 マルコ 10：17～31

金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

I テモテ 6：10

本日の聖書箇所にある、青年は完全に善良な人間ということではないのですが、非凡な人間です。尊敬され、信仰があり、道徳観があり、そして金持ちです。親であれば自分の娘には、こういった青年と結婚させたいと願うのではないのでしょうか？マルコは、『イエスは彼を見つめ、いつくしんで言われた。』と記しており、彼の善良な性格が伺い知れます。残念ながら、一見して全てのものを兼ね備えているかのように見えるこの青年には、唯一、欠けたものがありました。彼と永遠の命へと至る道への妨げ、それはお金です。彼は、イエス様につき従うためにお金を切り捨てることができませんでした。ですから、彼は、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去ったのです。彼の財産は、彼を縛っていました。彼は財産に所有されていたのです。イエス様はこの青年の財産が、イエス様につき従う幸いへの道に、常に妨げとなってつきまとうことをご存じであったのです。このことは、青年も、イエス様も、そしてイエス様へと至る道に妨げを持つ誰にとっても悲しいことなのです。

義へと至る道の妨げは金銭に限った話ではありません。誰かにとっては、習慣や、趣味かもしれませんが、誰かにとっては、プライド、利己心や罪なのかもしれません。イエス様へと至る道に何かの妨げがあるのでしたら、所有、追及、固執等、何者をもその道を妨げるに値するものはないということを私は断言します。何もありません。

讃美歌 320

祈 り 父なる神様。私が御子との間に何かの妨げを作っている時、どうかお赦しください。どうか主に至る道を開かせてください。どうかあらゆる妨げを取り除いてください。私は、今日もそして常に、主に付き従うこと以上の何の望みも抱かぬようになりたいと願っています。

富めるイエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ベン・マーネス

テキサス州 アマリロ

7月27日（木）

新 し い 家 族

聖書朗読 マルコ 10：29～31

イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、その百倍を受けない者はありません。」
マルコ 10:29～30

朝鮮戦争の開戦から間もない日のこと、10代のその青年は北朝鮮で暮らしていました。ある真夜中に、彼は、母親に揺り起こされて、10kgの米と、海岸に来る舟への道順と韓国にいる親戚の連絡先を記したメモを手渡されました。母親は彼を家の外へと急かせました。それが、彼が母親を見た最後となったのです。

しかし、舟は来ず、米はすぐになくなりました。家に戻るあてもなく、韓国にいる親戚に連絡する手段もありませんでした。全てを失ったと思った時に、彼には、お金も食料も家族もありませんでした。彼はソウルに行く小型船を見つけようと決意しました。

彼は生き残りました。しかし、彼は家族を亡くしました。ある日、彼は、英語の聖書講座の広告を目にしました。彼はその講座に出席し、年配の女性宣教師の教えを受けました。彼がクリスチャンになるまでそれほど長くはかかりませんでした。そして、彼は、父なる神様、長兄であるイエス様、母親たち、父親たち、兄弟たちである教会という新しい家族を見出したことを実感したのです。

神様にある家族の一員であることは素晴らしい祝福なのです。

讃美歌 270

祈り 愛する神様。教会に感謝申し上げます。あなたにあって一つたる私たち家族とその交わりのうえに与えられるあなた様の祝福に感謝申し上げます。私たちが信仰を保ち、従順で愛される子どもでありますように導いてください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ジョイス・ハーディン

テキサス州 オースティン

7月28日（金）

見 捨 て ら れ た 者 の 希 望

聖書朗読 ルカ 8：40～48

「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して行きなさい。」

ルカ 8：48

その女性は絶望にうちひしがれていました。彼女は社会から見捨てられ、血の病をもち、弱く、ひとりでした。彼女は、群衆をかきわけて、イエス様のみもとにたどり着き、イエス様の着物のふさにさわりました。すると、イエス様は、周囲を見渡して、誰がさわったのかとお尋ねになりました。彼女は、最後の望みが消えゆくのかもしれないと恐れ、更に、公衆の面前でまた辱めをうけねばならないのかと怯えました。

このイエス様の問いかけに、弟子たちは、戸惑った様子でした。しかし、もし弟子たちが、この女性が、彼女が（病気ゆえに）社会的に立ち入ることが制限されていた境界を超えて、イエス様に触れたということがわかっていれば、激怒したことでしょう。イエス様以外には人には知れずに、彼女は、イエス様の何かを掴みました。聖書の訳によって、衣服の縁や、ショールの端等と違いますが、私たちの文化でたとえるなら、公衆の中で知らない男性のネクタイをいきなり撫でたというようなことだったのだと思います。この時代では、唯一、家族だけが男性のショールに触ることが許されていました。彼女はそのことを理解しており、したことの重大さに身震いしていたはずです。

しかし、過度になれなれしい行いをしたこの女性に対してイエス様は叱ることをせずに、ご自身の娘とされたのです。

「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。」この慈悲深いお言葉によって、イエス様は、この女性を受け容れ、また、14年間に渡って彼女を遠ざけ、距離を置いた社会が彼女を受け容れるようにされたのです。長い年月に渡って、苦しめられていた身体の苦しみと、人々との閉ざされた関係が癒された時の彼女の喜びの大きさを想像して御覧なさい。

讃美歌 130

祈り 愛する神様。私は天の御国にあるあなたの家族に属していないことを知っています。ですが、あなたの養子としてくださいましたことに感謝申し上げます。子どもは、あなた様が示してくださいました父の抱擁を待ち望んでいます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ラティン・C・スコット

ニューメキシコ州 アルバカーキー

7月29日（土）

全 き 服 従

聖書朗読 ルカ 9：57～62

その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。 ヤコブ 1：4

スペースシャトル チャレンジャーの事故の後、当時のレーガン大統領は、サー・フランシス・ドレークに関する歴史家の評価を引用しました。「彼は海に生かされ、海で死に、海に葬られた」。レーガンは、犠牲となったチャレンジャーの搭乗員の献身は、ドレークが成し遂げたものと同じであったと締めくくりました。

私たちは、イエス様に完全につき従うということの意味の大きさに圧倒されます。今日の聖書の箇所は、その厳然たる現実をはっきりと示しています。実に、私たちの多くは日々の大半をこのような心配事に費やしています。例えば、家族の世話や、仕事が大事なことなのです。しかし、今日の聖書の箇所で、イエス様は、それは口実にすぎないと顧みられませんでした。

イエス様は、『私はあなたのおいでのなる所なら、どこにでもついて行きます。』（ルカ9：57）と申し出た志のある人に対してさえも、つき従うことは、言葉の響きよりもはるかに厳しいと、諫められました。真にイエス様に完全に付き従うことは誰にもできないというようなおっしゃりようです。

しかし、感謝すべきことに、イエス様はこうも仰っています。『それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。』（マタイ19：26）

うちなる聖霊の力にあって、後ろを顧みず、不可能と思えることを成し遂げましょう。イエス様につき従いましょう。完全に。

讃美歌 338

祈 り 神様。あなた様に完全に付き従う強さをお与えください。たとえ、どんな困難が私たちの道にあったとしても、なによりもあなた様の御国を求めることができますようにお導きください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ジョシュ・ボイド

インディアナ州 ラファイエット

7月30日（日）

祈 り を 教 え て く だ さ い

聖書朗読 ルカ 11：1～13

さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」 ルカ 11：1

ある人はとるに足らないと言いますが、私には、今日の聖書の箇所で弟子が「祈りを教えてください」と言ったことが印象深いです。私たちは、「どのように」祈るかということに注目しがちです。形式の方が大事なのです。それに比べると、「祈りを教えてください」という質問は、はるかに簡潔であり、はるかに素晴らしいものです。弟子の質問は、祈りの形式の失敗よりも、はるかに深刻な祈りの失敗という私たちの問題を覚えさせるのです。私たちを祈らせるものは何なのでしょう？

私たちは、自身の必要としているものゆえに祈ります。日々の糧を必要としていますが、それを得られるかどうか全ては自身の力の及ぶところではありません。私たちは赦しを欲していますが、それは私たちの決めることではありません。私たちは誘惑からの解放を願っていますが、私たちにはそれを完全に断ち切ることはできません。現代のこの国においては、私たちが不足していると感じる物質的な要求に対しては、いとも簡単に満たされます。私たちは必要と覚えることがあれば祈ります。

しかし、求めることだけが祈りの源ではありません。イエス様は、私たちに注がれる父なる神様の愛を確信させてくださいました。この地上における父親たちが子どもたちの求めに応じて与えるのであれば、天なる父は祈りに対して愛をもってお答えになるのです。

祈りは、座ったり、立ったり、ひざまずいたり、腹ばいになったりして様々な言語で捧げられ、時には『うめき』（ローマ8：26）でもあります。これらは「どのように」祈るかであり、それほど重要なことではありません。日々の糧と神の恵み、この二つのことを覚えて祈りましょう。

讃美歌 525

祈 り 父なる神様。私たちの重荷を憐れんでください。私たちはあなた様の慈悲と御力とを必要としています。私たちに祈りを教えてください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

テイヤー・サリベリー

オハイオ州 トレド